

聖マリア国際協力ニュース

第94号

平成20年6月1日発行

第21回日韓技術交流会議のご報告

チャブレン室 井手健一郎



釜山聖母病院でIT関連施設を視察

長崎湾で記念すべき第20回の日韓技術交流会議を盛大に行ったばかりだと思っていたが、もう21回目の日韓技術交流会議となり、当院理事長、聖マリア学院理事長・学院長はじめ11名で韓国釜山へ向かいました。会議冒頭は韓国カトリック医療協会 崔榮植神父様から歓迎の挨拶をいただき、当院理事長による挨拶へと続けました。両者とも20年という節目の年を終えて、新しい始まりとなる21回目に対して、新たな関係の構築や各方面への共同事業の展開に対する意気込みを述べられました。

会議には韓国側からは、崔榮植神父様、江南聖母病院の黃大坤病院長はじめ計12名が出席されました。会議の内容は「緩和ケア」「IT」「職員の派遣」「列福式への共同参加」「ソウル総合病院開設」から、グループ法人の聖マリア学院との交流、九州産業衛生協会との共同事業の検討など多岐にわたりました。(会議の詳細については、議事録を「ルルドの聖母」に掲載する予定ですので、後日そちらをご参照ください。また韓国カトリック医療協会の教育プログラムの説明や、当院のチャブレン室に当たる院牧室の活動などの発表もしていただきました。

会議後の懇親会には、1988年の医療技術協力協定締結時の主要メンバーである金大鶴神父様と尹景哲神父様も合流され、皆で港町釜山の海鮮料理を楽しみました。また日程二日目は、当院理事長の誕生日に当たり、韓国カトリック医療協会から誕生日のプレゼント贈呈や誕生日のケーキカットなどを催していただき、予想以上の盛り上がりとなり、最後には皆で手を繋ぎ「サランヘ」今日の日はさようなら」を合唱して幕を閉じました。

日程の中には、韓国カトリック医療協会の構成組織の一つである釜山聖母病院の見学が含まれておりました。今や韓国カトリック医療協会は33病院を擁する大きな組織で、建築やITなどのハード面のみならず、教育などソフト面も大変力を入れておられます。特に今回説明していただいた教育に関しては、具体的な各業務上の教育のみならず、倫理の研究から理念の啓発までを含み、それぞれの分野・レベルに基づき組織的に行われ、ただただ感心するばかりでした。それらを基に医療行為だけでなく、様々なサービスを「患者様のため」と規定し、また職員間でもその思想が浸透しているように見受けられました。

今やこんなに大きく発展した韓国カトリック医療協会ですが、常に私達を大切にしてくれ、また心のこもった歓迎をしていただいております。なぜ日本の一病院にこんなにしてくれるのだろうと疑問を持っていた私は、尹神父様と鄭事務総長とお酒を飲んだ際に尋ねてみました。すると「私達は同じ志をもっている兄弟だ」と力強い返事が返ってきました。これからも、彼らと兄弟足りえるよう、国は違うけれど同じ志を持つものとして発展していけるように、と思いました。



運営会議を終え一同で記念写真

韓国語教室のご案内(初級クラス・準中級クラス新設)

2008年第2期の韓国語教室を7月から開講します。一からはじめる韓国語初級クラスを今回も新設しますので、興味のある方は、国際協力部(内線2385)までご連絡下さい。

準中級、中級クラスへの参加も大歓迎です。どのクラスでも、参加ご希望の方は6月14日(土)17時迄にご連絡をお願い致します。

期間：平成20年7月～10月(各クラス16回)
講師：池田桂子先生
場所：聖マリア病院内
授業料：無料



クラス編成

1. 初級クラス(新設)：毎週火曜日 17:30～19:00
ハングル文字の書き方・読み方から過去形の作り方までを学びます。
2. 準中級クラス(新設)：毎週水曜日 17:30～19:00
初級クラスの反復学習に重きを置きつつ、新しい表現も学んでいくクラスです。
3. 中級クラス(継続)：毎週金曜日 17:30～19:00
表現したい事、再確認したい事などを先生に質問しながら進めていくクラスです。

新生児センターでの研修の感想

韓国忠南大学病院 康瑾仁

康瑾仁さん(Dr.Kyoung-in Kang)は韓国大田市の忠南大学病院に勤務する小児科医で、さる5月13日より当院新生児センターにて研修を受けておられました。残念なことに、御身内のご不幸のため、研修途中でやむなく帰国されましたが、急な帰国であったにもかかわらず、アンケート用紙に当院の印象等を書き残してくださったので、ご本人の了解を得て、以下に掲載いたします。(国際協力部より)

*研修部署の新生児センターと自分の病院の施設とを比べて、共通している点は何ですか？
「医師の日課。仕事の量は若干違いますが、1日の日課はよく似ています。」
*それでは違っている点はどこですか？
「24時間面会が可能という点が羨ましいと思います。また私たちの病院より施設の規模が大きく、医療機器などの設備も充実しています。全体として、聖マリア病院の方がずっと赤ちゃんに対して優しい施設だという印象を持ちました。」
*研修を通して、今後の仕事に活かそう



な点は見つかりましたか？
「できるだけ経口摂取させるようにして、TPN(高カロリー輸液による栄養摂取)をあまり使わずに未熟児を育てるやり方などです。」
*その他の感想、病院職員へのメッセージなどはありますか？
「宿泊施設のマリアンハウスは快適で、食事も美味しかったです。パソコンやハンゲルが使えるようにして下さった配慮も有難かったです。研修中にお世話になった新生児科の先生やスタッフの方々、国際協力部の皆様、本当にありがとうございました。また私が救急室の見学を希望した際は、急な申し出であったにもかかわらず、主任さんが丁寧に案内して下さったことにも感謝いたします。」



康瑾仁さん

国際協力部の山崎さん、四川省大地震救援のため国際緊急援助隊医療チームに参加



医療チームの活動拠点、四川省成都

ニュースでも報じられているとおり、中華人民共和国四川省において5月12日にマグニチュード7.8の大地震が発生しました。この災害被害に対して、日本政府は中国側の要請で国際緊急援助隊医療チームの派遣を決定し、聖マリア病院からは国際協力部の山崎裕章さんが参加メンバーに選ばれました。

医療チームは2週間の活動を予定しており、救急医療を専門とした医師、看護師、薬剤師、医療調整員、業務調整員の23名で構成。全国から応募があった約

900名の中から選ばれたということです。日本の医療チームは5月20日深夜、日本からのチャーター機で四川省成都に到着。当初、被災地での活動を想定していましたが、二次災害や感染症など隊員の安全面を懸念する中国側は成都市内の総合病院での協力を要望。協議の結果、中国側の要望を受け入れる形で、成都市の四川大学附属華西病院において22日から活動を開始しました。

華西病院に到着した医療チームは、隊員の専門分野ごとに施設を視察した上で役割分担を決定。山崎さんは、感染症の疑いのある患者を扱う「汚染区」と呼ばれる屋外テントの中で活動を行っています。

また山崎さんからは「元気に業務に励んでいます、と皆さんにお伝えください」とのメッセージが電話で伝えられています。



浦部国際協力部部長がミャンマー派遣の医療チームに参加

日本政府は5月28日、ミャンマーのサイクロン被災救援のため、国際緊急援助隊医療チームを5月29日より同国へ派遣することを発表しました。

今回派遣される医療チームは、医師4人、看護師7人、薬剤師1人から構成される総員23名で、当院からは浦部大策国際協力部部長がメンバーに選ばれています。

派遣場所はサイクロン被災が特に激しいミャンマー南西部のエヤワディ管区の町ラブッタ周辺で、約2週間活動する予定です。



サイクロンの被災地帯(赤円部)

今月の動き

- 【受入】
- ・6月30日(月)～7月11日(金)
韓国忠南大学病院医師1名、看護師2名が新生児センターにて研修
- 【派遣】
- ・5月20日(火)～6月2日(月)
山崎裕章：JICA国際緊急援助隊隊員として中国へ
 - ・5月29日(木)～6月11日(水)
浦部大策：JICA国際緊急援助隊隊員としてミャンマーへ
 - ・6月1日(日)～6月13日(金)
高岡宣子：カンボジア国医療技術者育成プロジェクト終了時評価調査の団員(看護・学校運営)として
- 【その他】
- ・6月18日(水)から1年9ヶ月
高和珍：韓国カトリック医療協会へ